

補助事業番号 19-1-100

補助事業名 平成19年度 アジア映画コンペティションの開催 補助事業

補助事業者名 (N) 東京フィルメックス実行委員会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

ア) アジア映画コンペティション開催

商業公開される映画の他に、発見されることを待っている映画が世界にはまだまだ多く存在する。そうした中で世界をリードするヨーロッパの国際映画祭では、作品を監督した映画作家の〈作家性〉が強く認められるアジアの新進監督の作品が注目を集めている。アジアからは台湾の Hou・シャオシェン、日本の北野武など多くの作家たちが映画祭に発見され、育てられてきた。日本にも〈映画の未来〉を提案するような“映画作家”が主役であり、かつ世界が求める真のアジア映画コンペティションが行われる国際映画祭が首都東京になくしてはいけない。以上の理由から本事業の実施を計画した。

東京フィルメックスは、アジアを中心に過去20年にわたり、世界の映画の最先端に精通した2名のディレクター(林加奈子と市山尚三)が新進作家たちの将来性も踏まえて選定にあたり、製作予算の大小に関わらず既成の概念にとらわれない強烈な〈作家性〉のあふれる作品を紹介していく。出品が契機となって日本での商業公開が決定したり、あるいは次回作の実現につながる、日本映画を海外に発信するといった〈新しい才能に道を開くこと〉が我々の果たす使命と捉えている。

過去には、私たちが紹介した中国の2000年最優秀作品賞受賞のロウ・イエ、2002年と2004年に2度も同賞を受賞したタイのアピチャップン・ウィーラセタクン、出品歴のある日本の黒沢清といった作家たちが、その後の作品でカンヌ映画祭へ進出したり、同じく2000年と2002年の2度紹介した中国のジャ・ジャンクーも一昨年(2006年)ヴェネツィア映画祭で最高賞を受賞するといった形で少しずつ実を結んできた。このような形で、私たちの心を豊かにしてくれる映画の作り手が、5年後10年後には一人でも多く育つように一このようなシナリオを描きつつプラットフォームを整備する。

本事業は以上をもって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

ア) アジア映画コンペティション開催

「心を豊かにしてくれる真のアジア映画を、海外に発信する国際映画祭を開催し、もって公益の増進に寄与する」目的を遂行するため、「第8回東京フィルメックス」を実施して、日本をはじめとするアジアを中心に厳選した、主に新進作家たちの独創性豊かな作品群を日本の観客に紹介し、作家たちと日本の観客との創造的な交流の機会を提供し、かつ体系的に海外に発信させる。

実施会期： 11月17日(土)～25日(日)計9日間

実施会場： 東京都千代田区・有楽町朝日ホール(11/18-/25)

東京都千代田区・東京国際フォーラムホールC(11/17のみ)

東京都千代田区・有楽町朝日スクエア

東京都中央区・東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール

東京都千代田区・シネカノン有楽町1丁目

東京都千代田区・MARUNOUCHI CAFE

上映作品数： 37 作品、36 プログラム、60 回上映

総入場者数： 18,627 人

登壇ゲスト数： 67 人

セミナー数： 19 プログラム

●会場別 (全 9 日間)

有楽町朝日ホール (9 日間、21 作品、28 回上映)

フィルムセンター (8 日間、12 作品、24 回上映)

シネカノン有楽町 1 丁目 (8 日間、8 作品 8 回上映)

有楽町朝日スクエア (7 日間、セミナー10 プログラム)

MARUNOUCHI CAFE (6 日間、6 プログラム)

●上映作品(部門別)

1) 東京フィルメックス・コンペティション：

アジアの新進作家による独創的な作品を上映するコンペティション部門。国内外の計 5 名で組織された審査員が最優秀作品賞と審査員特別賞を選び、最終日に表彰する。全作品の監督をゲストとして招き、可能な限り上映後に観客と質疑応答を行った。10 作品上映。

2) 特別招待作品：

作家性に富み、かつ現在の映画製作のトレンドを示す新作を紹介する部門。全作品の監督をゲストとして招き、可能な限り上映後に観客と質疑応答を行った。

11 作品 (10 プログラム) 上映。

3) 特集上映：

映画史に足跡を残す重要な映画作品を特集。日本で紹介されていない海外の巨匠や、海外に知られていない日本の作家を特集し、国内外の映画人や観客に広く紹介。

a) フィルムセンターと共催で英語字幕付き日本の巨匠特集

「山本薩夫監督特集—ザッツ <社会派> エンタテインメント—」、12 作品上映

b) 「日印交流年記念事業「リティック・ゴトク監督特集～インドの伝説的巨匠～」

(4 作品上映)

4) 関連イベント

会期中、来日ゲストや日本の映画人をパネラーに招いた入場無料のセミナーを実施。またアジアの映画作家の魅力を社会へ拓く交流プログラムを行った。前者は映画ファン、映画を志す若者から実務にあたるプロ対象。後者は文化芸術に関心を抱くいわゆる映画ファンでない方々まで対象としたプログラム。これらにより映画上映以外の形でもアジアの若手の才能の発信する機会を設けることとなった。

2. 予想される事業実施効果

①アジア映画コンペティション開催

2000 年に誕生した国際映画祭「東京フィルメックス」。第 8 回目となった今年も日本をはじめとするアジアを中心に厳選した、主に新進作家たちの独創性豊かな作品群を日本の観客に紹介し、作家たちと日本の観客との創造的な交流の機会を提供しつつアジアの映画を広く世界に”発信”する「コンペティション」と同時に、「特別招待作品」や「特集上映」では国籍に関係なく「現在の世界の映画のトレンド」を包括的に”受信”するという”受発信基地”とし

での役割を広く印象づけ、動員も 18,627 人と前年(=16,252 人)比約 15%増加して盛況のうち閉幕した。

●新しい才能の紹介

アジアのどの作家が 2007 年の現在「どこに目を向けているか」を見極めセレクションした。その結果、過去にも紹介したことがある作家たち(ラファエル・ナジャリ、ハナ・マフマルバフ、ケネス・ビー)が新展開を見せていて世界的に注目を集めている点、と同時にイスラエルや中国のドキュメンタリー、中国以外の中華圏といった国、地域からも起きているムーヴメント(上述のナジャリに加え、ケレト+ゲフェンのコンビ、ユー・グァンイー<中国>、リー・カンション<台湾>、ヤウ・ナイホイ<香港>、上述のビー<香港>)にも注目し双方をミックスさせ、さらに日本からは近年稀にみる活躍をして地位を確立しつつある万田邦敏と「ぴあフィルムフェスティバル」で注目を集めた高橋泉を選出しプログラムした。

彼らの何人かは現在、ヨーロッパ、特にフランスを中心に「将来を担うであろう才能」として注目されている。そこでアジアの先進国、日本から体系的にアジアの新しい才能を紹介するという従来のコンセプトに基づいたセレクションを行った。また「特別招待作品」として日本で商業公開となると難しい点も鑑み、「世界のトレンド」の日本への紹介と合わせて競わせることにより、2007 年の新しい映画の流れを提案出来たと言える。

●うもれた作品の発掘

特集上映として 2 つの特集が組まれた。

- ・ 故人で生前に然るべき評価がなされなかった才能の再評価(インドのリッティク・ゴトク)、
- ・ 海外では無名だが、日本が誇る財産を、英語字幕付きで世界に向けて発信する(山本薩夫)とバリエーションに富んだプログラムとなった。

これらは貴重な鑑賞の機会になったことに加え、出品ゲストのみならず、現在、現役で映画を撮っている国内外の映画作家たちにも大きな衝撃を与えた。映画祭は出来上がった映画を紹介するのみならず、特集上映を充実させることにより、映画史の再考に取り組み、歴史から今後の映画が進むべき道・可能性を示すことが率先して出来るので、タイプの異なる 2 つのプログラムは今年こそトライすべき挑戦であった。

3. 本事業により作成した印刷物

ポスター	2,000 枚
リーフレット	20,000 枚
チラシ	80,000 枚
公式カタログ	3,000 部

4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名：特定非営利活動法人東京フィルムメックス実行委員会

(トクテイヒエイリカツドウホウジントウキョウフィルムメックスジ
ッコウイインカイ)

住所：107-0052

東京都港区赤坂5-5-11 赤坂通り50番ビル 3F

代表者：理事長 蓮沼 健(ハスヌマ ケン)

担当部署：事務局(ジムキョク)

担当者名 : スタッフ 金谷 重朗 (カナヤ シゲオ)

電話番号 : 03-3560-6393

F A X : 03-3586-0201

E-mail : canalla@filmex.net

U R L : <http://www.filmex.net/index.htm>